



鞆っ子だより



5年生社会見学～日産九州工場・北九州エコタウン～



10月5日(木)に5年生が社会見学で、日産九州工場と北九州エコタウンに行ってきました。

最初の目的地の日産九州工場では、車づくりを見学しました。その工程は、①プレス(圧造)②溶接③塗装④組立⑤最終検査です。①では、車体のもとになるサイドパネルやドア、屋根などのパネル部品をつくるために、製鉄所から納入されたロール状の鉄板をカットし、金型がセットされた巨大なプレス機へ入れ、上下から強い圧力(1000～2000トンの力)をかけて一瞬にパネル部品ができる様子を見て、その迫力に驚きました。各工程ではロボットがとても活躍していました。しかし、最後の⑤最終検査では、人の命を乗せる車とあって、最後は人の目で、ちゃんと走るか、きちんと止まるか、ランプ等は正常に作動するか、車体にキズはないかなど100箇所以上の項目の検査に合格して、やっと1台の車が誕生することを学びました。



次に北九州エコタウンを見学しました。北九州エコタウンは、「資源循環型社会」をつくることを目指して、多くのリサイクル工場や研究機関の集まるリサイクルの中心地です。ここでは、



最初に生ごみを堆肥にリサイクルする工場、自動車リサイクル工場、OA機器リサイクル工場を見学しました。特に、自動車リサイクル工場では、車の枠組みをそのまま大きなプレス機に入れ、ものすごい力で押し縮め、金属の固まりにする様子を見ました。また、車の部品でまだ使える部分を車のパーツごとに保管して、インターネット等で販売していることを知りました。改めて、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の活動の大切さを学びました。

4年生社会見学～石炭歴史博物館・小石原焼伝統産業会館～



10月13日(金)に4年生が社会見学で、田川市石炭・歴史博物館と小石原焼伝統産業会館に行ってきました。

最初の目的地の石炭・歴史博物館では、当時の筑豊炭田が国内最大の出炭量であった様子が展示物等で知ることができました。特に、伊田堅坑の動力用として設置された蒸気機関の排煙用煙突は、高さが45mもあり、煙突には、約213000枚ものレンガが使用されているとのことでした。煙突を間近に見て改めてその大きさに驚きました。また、当時の石炭産業の発展にともなって栄えた筑豊の炭坑・坑夫を描写した山本作兵衛さんの炭坑記録画を見て当時の様子がよくわかりました。さらにこの作品は、2011年(平成23年)5月25日、福岡県田川市と福岡県立大学が共同で申請した山本作兵衛氏の炭坑の記録画および記録文書が、日本で初めての世界記憶遺産として登録されました。



次に訪れたのが小石原焼伝統産業会館です。ここでは、陶器ができるまでの過程が展示資料等



で詳しく学ぶことができました。展示品のなかには、この小石原の土地から出土した300年前の陶器もありました。会館の方の説明を聞いた後、陶芸の先生にろくろを回して、粘土から陶器をつくる実演をしてもらいました。その後、一人ひとりに湯呑の絵付け体験をしました。それぞれが事前に準備したデザインで筆を使って書きました。焼きあがった湯呑は、後日学校に配達されますのでみなさん楽しみにしておいてください。